

サザンクロスルータシステム「AR415S」

ファームウェアリリースノート

Version 2.9.1-17

Ver.2.9.1-17

下記の機能追加、機能改善をおこないました。

本バージョンで追加された機能

1. SNMP のエンコード方式の設定
SNMP マネージャーからの Get 要求に対し、返信する値(カウンター値)が特定の範囲にある場合の動作を設定できます。以前のバージョンのファームウェアでは、カウンター値の先頭 1Byte が省略されるため、SNMP マネージャーによっては正しい値が表示されないことがありました。本設定(デフォルトで ON)により、省略しない値を出力できます。設定は、追加された「SET SNMP ASNBERPADDING」コマンドで行います。
2. SNMP トラップ送信遅延時間の設定
起動時におけるすべての SNMP トラップを送信するタイミングを任意に遅らせることができるようになりました。設定は、新しく追加された「SET SNMP TRAPDELAY」コマンドで行います。
3. SNMP リンクトラップ送信遅延時間の設定
SNMP リンクアップ/リンクダウントラップを送信するタイミングを任意に遅らせることができるようになりました。設定は、新しく追加された「SET INTERFACE TRAPDELAY」コマンドで行います。
4. ファイアウォールにおけるフラグメント化パケット透過の最大数設定
ファイアウォールによってフラグメント化パケットを透過させる場合、「ENABLE FIREWALL POLICY FRAGMENT=UDP」コマンドによって設定可能ですが、このコマンドを実行した場合、透過させることができるフラグメント化パケットの個数は 20 個までとなっていました。本バージョンより、透過できるフラグメント化パケットの個数の上限を変更できるようになりました。設定は、新しく追加された「SET FIREWALL MAXFRAGMENTS」コマンドで行います。

本バージョンで改善された項目

1. ファイアウォールにおいて、フラグメントされた TCP 再送パケットの取扱いに問題があり、メモリーリークが発生する場合がありますでしたが、これを改善しました。
2. トンネルインターフェースのダウン時にリブートが発生する場合がありますでしたが、これを改善しました。

3. ごくまれに RENAME コマンドによりフラッシュメモリー上のファイルが削除される場合がありますが、これを改善しました。
4. ブリッジフィルター設定時、不要な「SET BRIDGE FILTER=1 ENTRY=1 PORT=ALL」コマンドが追加されてしまい、ブリッジフィルターが正しく動作していませんでしたが、これを改善しました。
5. レンジ NAT 使用時に、グローバル側からの TCP パケットを不正に書き換え、通信が行えませんでした。これを改善しました。
6. DNS に関するキャッシュポイズニング脆弱性(JVNVU#800113)への対策を行いました。
7. IPv6 近隣通知(NA)パケットの受信を待っているときに、Target link-layer address オプションの値が 00-00-00-00-00-00 の不正な NA パケットを受信するとリポートしていましたが、これを改善しました。
8. PIM-SM 使用時、ルーティング済みのマルチキャストパケットを筐体内に保持し続け、メモリーリークが発生する場合がありますでしたが、これを改善しました。
9. ファイアウォール使用時、TCP オプションヘッダーを正しく認識できず、スルーブットが低下する場合がありますでしたが、これを改善しました。
10. L2TP とファイアウォールを併用している場合、トンネル確立後、ファイアウォールセッションを削除し L2TP の再送処理が行われるまで通信が行えませんでした。これを改善しました。
11. UPnP で使用する TCP セッションが保持され続け、本製品との TCP 通信が行えなくなる場合がありますでしたが、これを改善しました。
12. VRRP のバーチャル IP アドレスとして自身のインターフェースの IP アドレスを使用している場合(優先マスタールーターとして設定している場合)、インターフェース監視機能(「ADD VRRP MONITOREDINTERFACE」コマンドで設定)によってマスタールーターからバックアップルーターに移行した後も、バーチャル IP アドレス宛での ARP Request に対し、自身の MAC アドレスで応答することがありましたが、これを改善しました。
13. ファイアウォールルールに VRRP のバーチャル IP アドレスを指定した場合、バーチャル IP アドレス宛での ARP に VRRP のバックアップルーターも応答していましたが、これを改善しました。
14. DHCP サーバーとマルチホーミングを併用した場合、DHCP クライアントに IP アドレスを割り当てたあと、再度、DHCP クライアントから DHCP DISCOVER パケットが送信されると、すでに割り当てた IP アドレスと異なる IP アドレスを割り当てていましたが、これを改善しました。
15. インターフェースダウンなどにより、リモート装置までの経路が確立されていない状態で L2TP の発呼が行われた場合、インターフェースアップ後にトンネルが確立されてもトンネル作成のための SCCRP パケットが続けて送信される場合がありますでしたが、これを改善しました。
16. 「SHOW L2TP TUNNEL CALL」コマンドを実行するとリポートする場合がありますでしたが、これを改善しました。
17. インターフェースダウン時、L2TP でカプセル化されたパケットを送信する際にリポートする場合がありますでしたが、これを改善しました。

18. L2TP においてリモート側の装置が再起動しトンネルの不整合が発生した場合、新たにトンネルを作成できませんでしたが、これを改善しました。
 19. リモート側の装置より L2TP 接続の切断が開始される際に、受信したパケットの Result Code によっては、機器がリブートする場合がありますでしたが、これを改善しました。
 20. センター経由の拠点間 IPsec 通信において、拠点間通信時にセンター側ルーターから ICMP Redirect が送出されていましたが、これを改善しました。
 21. IPsec SA 未確立時に受信したパケットを SA が確立するまで保持していましたが、これを改善しました。
 22. ポリシー名とインターフェース以外の値が同じ IPsec ポリシーを複数設定した場合、先に設定した IPsec ポリシーが常に優先され、設定どおり動作していませんでしたが、これを改善しました。
-